

インターバンクの声（2017年4月27日）

来月7日に実施されるフランス大統領選の決選投票でマクロン候補が間違いなく勝利するとは限らないはずだが、欧州情勢の先行き不安はかなり緩和されている。

北朝鮮問題にしても、北朝鮮人民軍創設85周年の記念日にあたる25日に核実験などの挑発行動に出るのではとの見方もあったが、さすがに北朝鮮も長距離砲の発射実施訓練に留めた。

それでも北朝鮮が単に5月上旬に実施される韓国大統領選前後に挑発時期をずらしたに過ぎないとの見方もあるが、こちらも警戒感が少し弱まっているようだ。

東京市場で111円台前半から中盤を中心にして動いたドル円は、ニューヨーク時間になるとトランプ大統領が発表する税制改革案への期待感から円安・ドル高合いが強まった。税制改革案の内容は、連邦政府の法人税率が現行の35%から15%へ引き下げられ、個人事業者などのパススルー事業への最高税率引き下げが盛り込まれているが、案の定、詳細についての説明はなく財源提示などもなかった。

そもそも期待し過ぎが問題だった気もするが、内容への失望から再び111円台前半まで戻している。簡単にはドル高にならないということだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。